

## 火鉢の上のユタンポ タンクキャップ由来のオーバーフロー

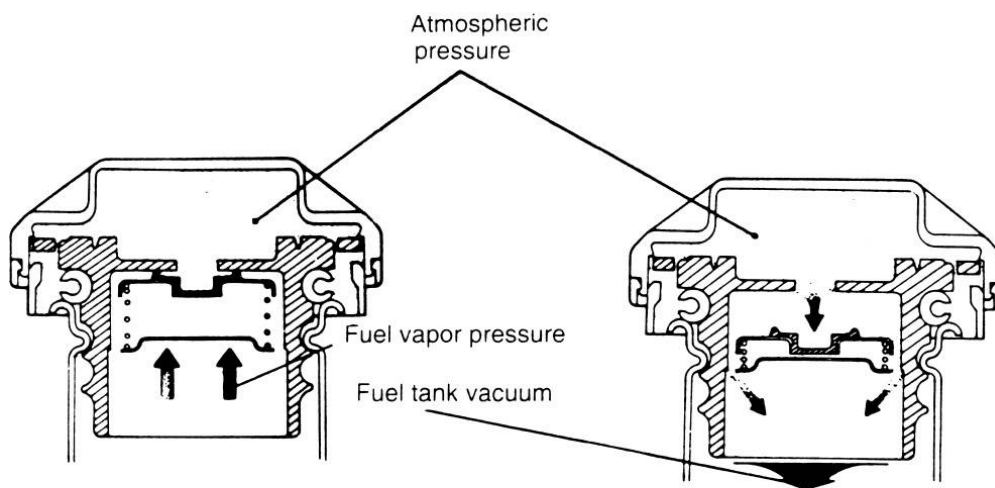


モノサス用樹脂製タンクキャップ



2002用などカッコは良いのですが、

古いタイプのタンクキャップにはベントホールが開いています。走行で燃料消費すると燃料油面が下がるためベントがないとタンク内で負圧となり燃料が落ちていなくなりエンジン停止します。燃料を一杯まで満タンにすると制動時にチャッポンといって燃料が溢れてきます。もう少し賢いキャップはバルブ式になっていて外気は進入するが燃料は溢れない構造となっていて安全性をあげています。



When pressure is in fuel tank

When vacuum is in fuel tank

バイク用ではありませんがバルブ機能がよくわかるイラスト

高速道巡航からパーキングで休憩、交通量の少ない郊外から市内渋滞路走行などでキャブレターからオーバーフローすることがあります。エンジンが冷えてきたら自然回復して再現しないような場合はタンクキャップが悪さをしています。高速巡航でそれなりに燃料消費していた状態から停車もしくは低速走行で走行風がなくなるためエンジン温度は上昇します。上部に乗っている燃料タンクは火鉢に載せたユタンポ状態となってタンク内の空気が膨張します。賢いタンクキャップは一方通行ですから上昇した圧力を外に逃がす機能は持ち合わせていません。当然、燃料に圧力が掛かりキャップのフロートバルブまで達します。浮力でバルブを閉じていますが強い圧力では通常の浮力では抑えきれません。瞬間的にキャップ内の油面が上がりオーバーフローに繋がります。

ある河川敷の花火大会で携行タンクのキャップを開けた瞬間、燃料噴射状態になり引火する悲惨な事故がありました。BMWもこの状態でフロートボウルを外すと燃料が噴出し危険な状態になります。ガソリン漏れで「おやっ」と思ったら燃料キャップを緩めてみましょう。「プシュー」とエアが抜けたり「ベッコ」と膨らんだ燃料タンクが戻る音が聞こえればオーバーフローは解消します。ガソリン携行缶も炎天下で放置するとパンパンになります。ベントバルブをゆっくりと緩め減圧してから給油しましょう。

自動車用のタンクキャップやベントが別個に設けられているキャップにはベント機能がありません。走行中にガス欠症状になりますのでご注意ください。タンクバッグもモノによってはタンクキャップに隙間無く覆ってしまうので慌てることになるかもしれません。



最近のカフェレーサー風やエンデューロ風のキットが出ているようですが「屋上屋を架す」のコトワザが、、、

東府中の中華屋さんの娘さん、あの時はゴメンネ、新車パツソルには穴加工を忘れたキャップが付いていました。燃料があってもガス欠してしまいましたね。

**CRIMECA**